

山行報告



比叡山

日 時：1月16日（日）日帰り

参加者：La 山本 SLa 大谷 貝塚(陽) 切貫 高橋 砂川(美) 開 渡邊(健)

Lb 上田 SLb 竹内 荒尾 狩集 澤田(卓) 塩津 森永

Lc 松下 SLc 和田 井上 岡本 河合 澤田(律) 砂川(延) 西村 増田

行動記録：宝殿駅前 7:35—ケーブル坂本駅 9:30—登山口 10:30—休憩 11:30—延暦寺 12:00
(昼食)13:00—大比叡 13:45—ケーブル延暦寺 15:00—ケーブル坂本駅 15:11—バス
15:30—やまとの湯 15:45—16:45—宝殿 19:10



★ 雪の比叡山

前日の天気予報によると荒天で風雪の上、最高気温で4度位「大変な日だなあ・・・」と思った。宝殿駅で待っている時は、とても寒かった。しかしバスに乗ると青空も見えた。現地に降り立つと小雪が舞って「大丈夫かなあ」と思いつつアイゼンを付けた。雪の上は、サクサクと気持ちが良いが下駄を履いてる感じで歩行は遅い。雪が積もった木々は白と黒のコントラストでとても美しい。一生懸命歩いたので少し汗ばんだ。道も広く1時間ほどで根本中堂に着いた。ここで昼食となった。休憩所は暖房がしてあり、とても有難かった。そこに比叡山の模型が有り、東塔西塔そのほか沢山のお寺があった。休憩後これで終わりと思っていたら、これから大比叡に登るとの事。雪で道が見えなく、広い道ではない方を登った。雪深い所をサクサクと歩いたのは、気持ち良かった。京都側からのケーブル駅

森永



に着き、その少し上が頂上838m。そこまでの景色はとても美しくおとぎの世界を歩いている様であった。それから根本中堂まで降りケーブルで坂本に降りた。その後お風呂に行き冷えきった体を湯船に預け本当に気持ち良かった。午後7時心配していた雪の害もなく「家にいるより暖かかったね」といながら宝殿駅に着いた。満足満足の日でした。有難うございました。

一口感想

土、日曜日は大荒れとの予報どおり京都に入ると雪が降っており、積雪の中での山行きは「扁妙の滝」以来でした。雪深く、風もありましたが急な所もなく、アイゼンの引っ掛かりも良かったのか歩きやすかった。延暦寺（根本中堂）辺りまでくると参拝者がこの雪の中大勢来ていました。大比叡山頂までの展望は悪く、外気温はマイナス四度、下山は日本一長いケーブルに乗りましたが、雪で景色はあまり見えず残念でした。

貝塚

ロックガーデン・地獄谷

日 時：1月22日（土）

参加者：L 砂川（延） SL 松下 荒尾 尾越 高橋 本多

行動記録：阪急芦屋川 9:10～高座の滝 9:30—10:10～小便滝 11:00～ピラーロック 11:30—
14:00～奥高座の滝 15:10—15:50～高座の滝 16:20～阪急芦屋川 16:45

★ 六甲ロックガーデン・地獄谷～ピラーロック冬山アイゼントレ

松下

1月22日から23日に予定していた会で初めての冬山泊山行“氷ノ山”は、今季積雪量が多く、困難が予想されるということから中止になった。リーダー以外は初心者ばかりのパーティーなので、これは賢明な選択であったと思う。同日程で同様に氷ノ山を組んで実施した会もあったのだと知ったのは翌々日の連盟事務所でのアマチュア無線講座の席だった。

よく雪山は体力勝負と言われる。加えて諸々の雪上技術が必要であるし、それを実践する経験も積んで行かなければと思う。積雪期の登山口までのアプローチさえまならない私には異議を唱える力がないので、中止の決定は素直に受け入れるしかない。ただ、登山口までさえたどり着けないもどかしさが残る。会で唯一、雪山経験のある砂川会長から“大きな山はパーティーの力量を上げないとできません。”と言われてきた。今季は会の冬山に期待したが残念！代わりに六甲・地獄谷でアイゼントレをすることになった。

a. 氷ノ山山行を希望したメンバー全員揃ってのアイゼントレは初めてで、この点は問題有りと思う。実際の雪山へ行く前には少なくともアイゼン歩行とピッケルワークができていないと問題外である。昨年、12月23日の地獄谷でのアイゼン歩行よりはスムーズに歩けていたけれど、ボッカでのアイゼン歩行にもっと慣れておかないと、実際の雪山では予定場所までたどり着けなくてピバークになりかねない。雪山の為のアイゼントレでは、各自荷重を加えて行うべきである。雪山へ行くためには雪山装備が必要で、その装備を持つボッカ力だけでなく、使いこなす努力もまた必要で、それらの備えがないと安全面から不安である。雪山装備と言えば、アイゼン・ピッケル・ワカン（スノーシュー・

スキー）・ビーコン・ショベル・プローブ……。これらを使いこなせることが必要で、今後の課題である。

b. ピラーロックでは確保による登下降の練習をした。まず、確保による下降の練習からで、今回は下降器を使わないで、確保支点にかけた環付カラビナにロープをムンターヒッチにかけて上部から下降者を確保して下りる練習した。下降者はスリングをバックマンノットかマッシュャーで自己確保をしながら自分の体重をかけて下りた。下降者の下降技術のバックアップとしては補助ロープで同様に確保した。実際の雪山ではこの技術はどういった場面で使うのだろうか？キノコ雪の下降、他には・・・システムについて反省してみると、メインロープから別の支点で確保者はセルフをとるべきであったし、岩にメインロープをじか掛けで確保支点を作る方法もあった。もっとスムーズに速く、通常の携行の装備でのシステムのセットができ、もっと短時間で全員が下降できるように反復練習が必要である。

c. 下山ルートを選択で荒地山へ向かい、途中から谷沿いに進んだ。高座奥の滝で想定外の断崖を下りることになった。先頭と最後尾は三点確保で下りたが、後はロープを出して、マッシュャーで自己確保をするか、確保器をつけて下りてもらった。こういった場面では岩場の安全を踏まえた身のこなしが生きてくる。この点について、崖上でセルフを取らなかった事を反省する。また、ロープを出したとしても懸垂下降で下りれば時間ももっと短縮できる。全員がこの断崖を下りるのに40分も要してしまった。懸垂下降の習熟は大きな課題である。と、かなり反省材料ばかりの辛口報告になったが、雪山は甘くはないのでお許しを・・・自戒も含めて報告します。

六甲森林植物園

日 時：1月23日（日）日帰り

参加者：L 西村 SL 尾内 大谷 岡本 貝塚(陽) 澤田(律) 金島 狩集 河合

佐藤 松尾 塩津 砂川 武田 開 藤原 巻藁

行動記録：新神戸駅 9:15～みはらし展望台 9:35—9:40～森林植物園東口 11:35～園内昼食
11:45—13:05～展示館 13:15—13:25～森林植物園西口 13:40～再度公園 14:20—
14:47～二本松 15:25～城山 15:40—15:45～新神戸駅 16:15

★ “冬枯れの六甲森林植物園”

砂川

「山に来たのに山を見ないで海を見てしまう」とテレビのお笑い番組で放送されたことがあるとか、そんな六甲山系が私は大好きだ。

今日は女性委員会主催で森林植物園にいった。

新神戸駅に総勢17名、駅からすぐにとりつける山域なので大勢の待ち合わせの人でにぎわい、子供たちや家族連れなどもいて人気のある神戸の裏庭だ。

貿易港神戸に居留した外国人が山々に休息を求めて歩いた道でもある。今日は、布引の滝も水量が少なく、すっかり冬枯れで寒々しいが凜とした空気の中に日差しが入って、山が明るい。この場所に立つと若かったあの頃に引き戻される。

学校の遠足や職場のグループ、友人と来た市ヶ原、その頃は川の水で飯盒炊きもできた。摩耶山に登る天狗道や黒岩尾根の分岐を右に見ながらトエンティックロスをいく、道が広いので女性ばかりの気やすさで話も弾んでいる。高低差も少なく歩きやすい、このハイキングコース、このルートが歩けなくなったら山行きも終わりだと常々思っている。

森林植物園には東門「裏口」から入る。登っていくとさすがに池は氷が張っていて“天井こ張ったと思うべな”という歌を思い出しながらいつもの鯉はどこかと歩いていたら水がない上の方で集まっていた。

以前に来た高台の“ブリスベンの森”の方に寒梅でも咲いていないかと行ってみたが花はまったくなく、それでもどの木もしっかりと硬いつぼみを用意して春を待っている。あまり風もなくラッキー。

楽しい昼食を済ませるとリーダーの方々による学習“ツェルトによるビバーク（緊急露営）”の方法が始まる。「ツェルトの任務は、持って登るのが任務ではない、もしもの時に

対応できることが任務ですよ」なるほどそういえばそうだ。荷物として持っていく係かと思っていた人も多いかも、私もその一人だ。

ツェルトを張ったり入ってみたり——了解です。

西門を出て、学習の森～再度公園修法が原へ出る。リーダーが心いっぱい用意してきたコーヒーや紅茶で休憩をする。ホッと一息おいしかった。

大龍寺からはちょっと欲張りコース、再度ドライブウェイに沿って二本松に出る。

このコースは落葉がいっぱいで歩きにくい所だ。足元に注意して下ったが、滑りやすく緊張して歩いた。城山展望公園でやれやれ小休止したが時間は早いけれども冬の山はうす暗く、心が焦った。この道はなれないコースでもあり、もう少し早く下山すべきだったと思った。それでも全員元気で楽しい一日だった。ありがとう



山神社

日 時：1月26日（日）

参加者：L松下 荒尾 大瀬 講師：袴田

★ 山神社クライミング

大瀬

今年、初めてと言うか年末忙しかったので2カ月ぶりの岩登りで、緊張と寒さで体が思うように動かない、風も有り登っていると、指はかじかみホッカイロを懐に4本は登ったでしょうか？

今日は、久しぶりなので無理はしないで、今まで登ったことのあるルートを慎重に登る事だけ心がけた。

昨年クライミング1年生で何も解らないままに、岩にしがみ付いていたようにも思う。レベルアップをしても、ゆっくりと余裕を持った登りが出来るように、講師や他に人の登り方を手本にしていきたい。

日 時：1月30日（日）

参加者：L松下 尾越 高橋 和田 講師：袴田 智

★ 岩例会（初めての岩登り講習）に参加しての感想

和田

講習場所は私の自宅から近い桶居山の西寄りの南の岩場である。私はこの近くをよく通り、この岩場で誰かがトレーニングしているのを時々みかけていた。興味はあったが、それほど積極的に自分に当てはめてみたことはなかった。

今回、首記の例会があると知って、どんなものか見てみようと思い参加した。

少し離れた所から見ているぶんにはたいして大きくはない崖と思っていた。が、岩の下に到着して見上げると、はるか上方までせり上がった いやすごい崖だなと実感する。

今日の講師は袴田さん(垂水労山)という方と松下さんである。

私はヘルメットをかぶり、両ももとウエストにつけるクライミング用のハーネスを装着し、足にはクライミングシューズというバレーのトゥシューズみたいなものを履いた。←…全て借り物。今日の登りはトップロープクライミングというものだそうである。松下さんが準備のためロープの一端を自分のハーネスに結んで登って行った。途中、固定



金具（フィックスというらしい）にカラビナをつけてそれにロープを通してゆっくりにながら、ゆっくりにながら、どんどん高みへと登って行った。落ちたらえらいこっちゃ

などはらはらする。最上端の固定金具へ通した後は、そのまま同じ手法で下に降りてきた。

今度は受講者がそのロープを自分のハーネスに結びつけ（学習会で習った8の字結びで）、それを命綱にして登ってゆくのである。ロープで登るのではなく足と手であくまで自力で登ってゆくのである。ロープのもう一端は講師によってたるみを手繰り寄せてもらっている。1m程度ならそれほど怖くはないが、2m、3m、果ては10m？と登っていくと怖くなってくる。

手掛かり、足掛かりがほんのちょっとしかなく手足がすぐ外れそうである。落ちそうになったらロープが支えてくれるはずと頭で思うが、恐怖半分である。ま、とにかく何とか登れた。下降はロープに体重をかけて保持側の人（講師）の緩める速さで、崖に足を

ほぼ垂直に立てて、少し跳ねる感じで歩いて降りました。

怖かったが、もう少し慣れてみたいという気も残った。

講師方の懇切丁寧な指導、有難うございました。

丹生山

日 時：1月30日（日） 日帰り

参加者：L大瀬 SL澤田（律） 荒尾 岡本 澤田（卓） 中嶋 開 藤田 三木
森川 渡邊（健） 渡邊（俊） 多木

行動記録：呑吐ダム駐車場 9:20～丹生山登山口 10:20 ～丹生山頂上 11:55～シビレ山 12:15 ～
昼食 12:30～呑吐ダム駐車場 14:05

★ 丹生山に登る

最近、寒い時期の山行にあまり参加していないので、トレーニングしなければと思い寒い時期にこの山行に参加した。車を駐車したのは61年に完成した呑吐ダム。このダムは昭和41年に計画されて61年に完成した。神戸市、三木市、東播磨の各地域に農業用水、水道水を供給する目的で建設されたダム。



このダムは私が良くゴルフに通った、兵庫カントリー（丹生山から5 kmほど北東）に行く際の道の横に作られたダムで、以前は、南側の道の横は崖で車が途中交差するにも困る細い道で、緊張して運転したことを思い出す。40年ほど昔の話。

車から降りて歩き始める際、ダム管理の方

藤田

無いとのことでひと安心。ダムの周回路を歩くこと約1時間で千年家についた。トイレ休憩後丹生山の登山を開始した。

渡邊（健）さんから送ってもらった標高図では450 m程を一気に登るようになっているので、気合いをいれて登り始めた。道に落ち葉がびっしり。

登りながら高御位山の火事のことを思い出した。こんなに落ち葉があったら、まだひどい山火事になったであろう。それにしても、高御位山はひどい焼け方であった。丹生山登山のトレーニングのつもりで3日の日に高御位山に登ろうとでかけたが、まだ完全に鎮火しておらず、上空からヘリコプターが消火剤をまいていた。登山禁止と書かれていたので、北山から登って、米相場、太閤岩を往復したが、高御位山の南面の無残な状態に胸が痛んだ。そんなことを思いながら歩いていたら意外なほど楽に頂上に到着した。頂上近くには山城があった模様。それにしても、良くもこんなところに城を造ったものだと思います。小休止の後、シビレ山に出発した。丹生神社までは軽四で上がる道がついていた。



シビレ山からは周りの景色がよく見える。それにしてもなんとゴルフ場の多いことか。5カ所ほども見える。西を見ると高御位山らしき山も見え、良い眺めであった。昼を過ぎて

いたので慌ただしく降りて、風の当たらないところを探して昼食をした。気温は1度。素手になってご飯を食べると手が悴んできて5分と持たない。ポケットに手を入れて温め、手を出して喫食する。食事もそこそこに下山を開始した。意外に急斜面が多く、降りやすいように至る所にロープが括り付けてあり大いに助かった。下山は意外に早く、2時には出発点に無事帰ることが出来た。寒かったが、見晴らしも良く、皆とわいわい言いながら楽しい山行でした。

金剛山

日 時：2月6日（日）日帰り

参加者：La 渡邊（俊） 荒尾 大谷 金島 切貫 竹内 巻藁 森永
Lb 上田 SLb 西村 岡本 狩集 佐々木 塩津 三木 山本 蔵田
Lc 砂川 SLb 尾越 尾内 河合 開 森川 和田 増田

行動記録：山電高砂駅北7：15～JR宝殿駅北7：30～

金剛登山口バス停10：00（ストレッチ）10：25～千早神社10：45—10：50～
金剛山頂12：00（昼食）13：00～展望台13：20—13：30～百が辻14：10—
14：30～かんぽの宿15：00—（入浴）16：00発～JR宝殿駅北18：40着

★ 千早本堂から金剛山

山から下りてきて、かんぽの宿の湯にひとりビールを飲む。じんわりと酔いがまわる。手足のこわばりがスーと消えていく。そして、山行の記憶もスーと……。

7：38宝殿駅北側よりバスに乗り込み出発。総勢25名、湾岸高速経由で順調に千早赤坂村を目指す。バスの中は和気藹々。外は雲を通して太陽の鈍い輝き。天気は如何に？金剛山登山口バス停に到着。道の脇を登山者が列をなしてゾロゾロと山に向かっていく。ひょっとして、頂上は押しくら饅頭状態？プラスチックのそりを担いだ親子連れも多い。靴紐を締め、スパッツを装着。会長のリードでストレッチを行い、10：20、C班、A班、B班の順で出発。杉林の中の道（舗装道）を登っていく。周りを見回しても雪が無い。

佐々木

風も無い。寒くない。樹氷があるわけ・？？。分枝を千早城跡方面にとる。道は階段となり延々と続く。登りやすい階段で助かる。チラホラと雪を見ながら、汗をかきつつ、千早城跡に着く。千早城＝藁人形という記憶の断片が浮かんでくる。どうも、出処は昔聞いた講談のようだ。汗ばむ暖かさなので、皆さんウェアの調整。私も脱いだものをあわててザックに詰め込み出発。相変わらず階段だが、踏み固められた雪で坂道状態。滑り易くなってくる。のろし台跡を通過したはずだが路面ばかり見て歩くので気付かず。11：30アイゼン装着。歩き易い。足取りも軽く、荷も軽い。木々の間から陽が差しってくる長靴にアイゼンを着けた幼児がトコトコと登っている。階段の蹴上が低いわけに納得。

頂上の表示のある広場（国見城跡）に到着。本当の山頂は本殿の裏山で立ち入れないとか。広場が山頂扱いとは。“押しくら饅頭”対策？まさか！！それにしても、人、人、人。葛城神社の境内の広場で昼食をとる。雪上の昼食も、無風状態で日差しが心地よい。♪・・・風はなごみいてえ陽は暖かし・・・♪と、鼻唄も出る良い天気。神社境内には売店が有り大きな“かまくら”が作られていて、縁日並みの人混み、登山口で見た行列に納得する。頂上広場に戻り青空の下で全員で写真撮影。



13:00 下山の途に着く。樹氷は見られず残念。一等三角点を通り展望台に。ちはや園地休憩所前を通過。ここも人人人で混雑。

一口感想 金剛山

大阪府の最高峰、金剛山。また、樹氷が見られることで有名な山です。

登りだして感じたのは、人・人・人！！！！出発から山頂、下山するまで、大人はもちろん小さなお子さんまで大勢の人達と出会ったとても賑やかな山でした。樹氷は見る事が出来ず残念でしたが、私にとって、久々にアイゼン装着の山行となり、仲間のお陰でとても充実した一日となりました。皆さん、有難うございました。

申し訳なさそうに立っている樹氷祭りの看板等。メモを取っている間にみなさん出発。迷子にならぬようSLさんが付いていてくださいました。心配り、目配り、ありがとうございました。伏見峠の分岐点を右へ。念仏坂をハイペースで下る。景色どころではなくただ歩む。他の団体さんがこれもまたハイペースで後ろにつく。クラッシュ。B班後部は他所のパーティに埋もれる。単調な坂をアイゼンを着けて、唯々、トットコ、トットコと下る。“かんぼの宿”に15時までに入らねばならぬためのハイペースだったとの事。

バスに乗り、一路風呂とビールを目指す。15時5分前にかんぼの宿富田林に到着。風呂から出て呑むビールの旨いこと。16:00にかんぼの宿を出発。2時間45分で宝殿駅に到着。バスの中では、失敗談に大笑いしつたりの退屈しない帰路でした。樹氷は来年の楽しみに。

全行程、風もなく、暖かく、日差しも柔らかく、天気よし。山よし。仲間よし。楽しい山行が出来ました。お世話下さったリーダー、そして参加された皆さん有難うございました。

まきみ



山行報告



増位山～広峰山～書写山縦走

日 時：11月12日(金)

参加者：L 上田 SL 澤田(律) 荒尾 井上 狩集 澤田(卓) 瀬尾 竹内 武田 原
和田 渡邊(健)

行動記録：JR野里駅 9:00～増位山東尾根登山口 9:18 - 9:25～増位山頂上 10:00 - 10:09～
増位山随願寺 10:29 - 10:43～広峰神社 11:25 - 11:35～氷室池(昼食) 12:47 - 13:10
～書写山置塩口 13:43～書写山摩尼殿 14:30 - 16:20～横関バス停 17:00

増位山～広峰山～書写山を歩いて

当日は朝起きると雨だった。中止の連絡がないし、テレビでは朝方雨が降るが、お天気は西から回復すると予報していたので、今日は大丈夫、行けるぞ！家を出る時には雨はやんでいた。良かった。

乗り場が高架になってから初めて播但線に乗る。ホームも車両も新しく、車両のドアを開けるのに自分でボタンを操作するので、その普通通勤していた懐かしい路線だが、隔世の感がある。感慨に浸る間もなく、野里で下車する。

今回の増位山、広峰神社、書写山はそれぞれ単独では訪れたことはあるが、いずれも車かロープウェイで行ったもので、自分の足で、すべてを踏破するのは初めてです。どのよう



狩集

に連なっているのか、楽しみにしていました。

増位山東尾根登山口から登る。登っては平らなところを繰り返して、徐々に高度を増して行くので、そう厳しくはなかった。雨上がりの中、もやが立ち込めていた。寒くもなく、暑くもなく、木立の中を鳥のさえずりを聞きながら、良く整備された道を歩いて、一時間ほどで随願寺に着く。随願寺は姫路城主榊原氏の菩提寺であり、姫路では最古の寺だそうだ。堂々とした本堂と周りの景色もすっきりと広々として気持ちがいい。

随願寺から広峰神社への道は苔むした石垣や大木に歴史を感じ、先人も歩いた道を私も歩いているのだなと思いました。先人は何を思い、何を考えていたのだろうか。

広峰神社からは、お城や姫路市街地、播磨平野、瀬戸内海が一望できるのだが、残念ながらお城は修理中、街は黄砂でよく見えなかった。桜の季節によくこの神社にきたものです。七五三詣の家族がいてのどかな感じがした。

広峰神社からは、しばらく木立の中を標高差もなく軽快な足取りで歩く。氷室池に降り

る段になって急な道が待っていた。とがった石やごろごろ石に注意して下る。川か道か分らないようなところを通って、氷室池に到着。難関突破でほっとする。お殿様に献上するため氷を保存していた場所であろうか。紅葉が美しい景色を見ながら、やわらかい陽ざしの中でお弁当を頂きました。

お腹も一杯になったところで、夢前川を渡り、置塩の登山口から書写山にのぼる。木立の中の道なので、景色は見えない。「まだかな」「まだかな」と思いながら1時間くらい歩いたら到着。摩尼殿からの景観はいつも感嘆させられる。大きな銀杏の木が黄色く色づいて今が見ごろで素晴らしい。紅葉は赤から緑まで色々でこれも良い。その後特別公開されている本多家廟所を訪れる。姫路城主五代の殿様の他に、千姫の夫の本多忠刻と



その子の幸千代の墓もあり、忠刻が亡くなった時に割腹殉死をした忠刻の小姓で、剣の指南役の宮本武蔵の養子三木之助のお墓もあった。千姫とか武蔵とか知っている人の名前が出てくると興味をそそられる。「ラスト侍」にこの廟所の石畳が使われたそうだ。大講堂、食堂（ジキドウ）、常行堂、金剛堂の天女が描かれた天井絵、十妙院の狩野永納筆による襖絵を見学しました。ロープウェイ山上駅までの道も整備されていて、ゆっくり散策を楽しみ



ました。ロープウェイの山上駅から脇の道を降りる。また夢前川を渡って横関からバスに乗り帰路についた。何度もきているのに、ほんとに良い時期に登ることができてよかった。今回の特別拝観で歴史を身近に感じることができました。ロープウェイに乗らず歩ききれた事が嬉しかった。お世話下さったリーダーはじめ仲間の皆さんに感謝します。また行きたいコースです。有難うございました。

山神社 岩例会

日 時：11月17日（水）

参加者：クライミンググループ L 松下 大瀬 荒尾

講師 袴田智（垂水勤労者山岳会）

ロープワーク体験

大谷 澤田（卓）澤田（律）渡邊（俊）

山神社 岩例会 ロープワーク体験

澤田

10月20日のAグループ学習会において、

ロープの結び方の学習をした。その際、山神

社において、クライミンググループの例会が開催されるので参加希望者があれば、どうぞとお誘いがあった。

クライミングの言葉も満足に分からないまま、現場でのロープの扱い方等見学できればと思い参加した。岩場の断崖絶壁に圧倒されていると、講師の袴田さんより山行縦走を想定し超初心者コースを登って見ないかと勧められた。当日、一般で参加していた4名はロープを張ってもらい、チェストハーネスをつけ、カラビナにシュリングでバックマン・ノットやムンターヒッチなどの固定方法を用いて岩場をあるいた。傾斜の程度も分からないが足がすくんで前へ出ない。足場の位置、手の位置など操作ごとに、どこに置けばいいのか咄嗟の判断ができない。兎に角、怖いのである。しかし、怖いけれど比較的落ち



着いて、岩場を時間をかけながら歩けた。これは講師の袴田さんの的確な指示や松下さん、大瀬さん、荒尾さんなど会のメンバーがフォローして下さったお陰だと思った。必死で歩いた岩場だが歩いたあとの爽快感は何故起こるのだろうか。不思議だった。

翌日は上腕の筋肉痛が残ったが、足の方はどうもなかった。

学習会で学んできた、ロープの活用が実践できたことは安心登山への一歩になると思った。皆さんも、体験してみませんか。

東床尾山・西床尾山縦走

日時：11月28日(火)

参加者：A班 L渡邊(俊) SL澤田(律) 荒尾 足立(美) 貝塚(陽) 瀬尾 中嶋 平山 和田
B班 L山本 SL竹内 阿蘇 大谷 狩集 北村 佐々木 武田 長谷川(孝)
C班 L砂川(延) SL貝塚(文) 足立(光) 井上 切貫 澤田(卓) 塩津 森川 渡邊(健)

行動記録：山電高砂駅北7:45 JR宝殿駅8:00 朝来SA8:53-9:05 和田山IC9:15
森林総合施設9:39-9:53 西尾山登山口9:58-10:08～精錬所跡地10:38～休息11:07
- 11:15～西床尾山山頂11:44-11:50～昼食12:01～A班B班と交差12:40～避難小屋
13:02～東床尾山山頂13:07-13:28～鉱山精錬所跡地14:03～糸井の大力ツラ14:15
～管理棟15:00 奥かおりの湯15:25-16:32 pao pao16:35-17:01 JR宝殿駅18:20

時計回りで西床尾山から東床尾山へ

兵庫県南部地方は朝から良い天気であったが、本日登る東・西床尾山は兵庫県北部に近く、午後からの降水確率は50%であり、もしかすると、午後雨かも?と心配しながらの出発となった。

西床尾山から時計回りで東床尾山へ登った。最初のうちは風もなく、沢沿いを会長にゆっくりと歩いて貰ったので比較的楽に歩けた。ここは、夏に来て涼しくていいだろうと思った。川の流れを見ながら反

澤田

対側の谷筋に目をやると、ここにも水が流れている。直前に雨が降ったのだろうか。しばらく歩くと、落ち葉のジュウタンが続く。風情はあるのだがこれが厄介な代物である。落ち葉の下に石や木の根っこがあり、これを踏むと滑りやすい。注意しながら歩いた。この急坂を登りながら下りは、より危険だろうと思った。杉や檜の林を抜けると西床尾山頂に到着した。展望はあまり良くない。向かいの東尾根の方を見ると人



影が見えた。A班・B班の人かも知れない
と思い「オーイ」「ヤァーホ」と叫ぶが返事
はない。近そうに見えても、距離があるの
か聞こえないようだ。

時折、冷たく強い風がピューピュー吹い
て寒い。風の当たらない場所で昼食となる。
ここで熱いお茶を一杯飲んだ。身体が温ま
り一息つけた。少し休息して出発する。し
ばらく歩いた所で、A班とB班に出会う。
お互いに、下り坂は「きついで」と情報交
換しながらすれ違う。自然林の中の稜線を
登ってゆくと、839m東床尾山の一等三
角点に到着。三角点にタッチする。山頂は
広く360度の展望である。氷ノ山、蘇武
岳、大江山など兵庫、京都の山が見えるら
しいが確認できず残念。下山は急な斜面を

下り、途中で縦走路と合流。ここは、かつ
て金山として栄え、精錬所があったと看板
に書いてある。また沢沿いに下っていくと、
国の天然記念物、糸井の大カツラがそびえ
ている。樹齢は約2000年、樹高35m
の巨木で、朽ちて空洞となった主幹の周囲
を約80本の孫生えが覆う。孫生え全周1
9、2m、主幹(空洞)内周12、5m、
枝張り東西40m南北33mと見事なもの
であった。現在は保護のため根元周辺は立
入り禁止になっている。ここから、バスの
待つ道路へ出て、バスに乗り込んだ。降り
ていくとA班・B班が丁度下山してきたと
ころで、タイミングよく合流できた。スト
レッチの後、奥

香の湯で入浴。
その後、買い物
を楽しんだ。い
つもながらの楽
しい山行ができ
た。お世話にな
ったリーダーは
じめ、参加の皆
さんに感謝します。



納山会：六甲摩耶山 ZAKOBA

日 時：12月5日(日)

参加者：

A班 L上田 SL尾越 SL山本 井上 狩集 北村 長谷川(孝) 藤田 森川 渡邊(健)

B班 L西村 SL澤田 SL渡邊 荒尾 切貫 佐々木 澤田(卓) 瀬尾 多木 中嶋

C班 L砂川 SL尾内 阿蘇 金島 坂田(俊) 佐藤 荘所 水上

D班 L松下 SL須増 大谷 塩津 高橋 長谷川(易) 本多 和田

行動記録:A班 新神戸駅 8:02~みはらし展望台 8:18-8:27~市ヶ原 8:54-8:59~黒岩尾根への
分岐 9:15~休憩 9:45-9:55~旧神戸市界標石 10:10~休憩 10:52-11:00~掬星台
11:15-11:40~休憩 12:35-12:43~市ヶ原 13:14-13:19~みはらし展望台
13:47-13:57~新神戸駅 14:09

B班 新神戸駅 8:00~みはらし展望台 8:20-9:00~天狗道分岐 10:00~摩耶
11:00-11:15 掬星台 11:20-11:40~青谷、旧摩耶道~休憩 12:40~新神戸駅 13:45

C班 新神戸駅 8:05~みはらし展望台 8:20-8:30~桜茶屋 9:05-9:10~掬星台 12:10
~不動の滝 12:40~雷声寺 13:30~新神戸駅 13:50

D班 新神戸駅 8:03~みはらし展望台 8:17-8:25~布引貯水池 8:35~市ヶ原
8:45-8:50~地藏谷入口 9:07~第4砂防ダム 9:47-9:52~天狗道・地藏谷分岐
10:12~掬星台 10:28-11:05~休憩 11:55-12:00~黒岩尾根 12:33~市ヶ原
12:45-13:00~みはらし展望台 13:22-13:35~新神戸 13:50

摩耶山に登って

摩耶山は今年、7月の下旬に阪急六甲から徳川道を登ったのを思い出しました。神戸の夜景をみるために午後3時から登った。今年のみれにみる暑さのため、そんなに急な登りでもなかったのですが、大変しんどかった。あの暑さからもう12月、ほんとに月日の流れは早いものです。

8時に新神戸に集合して、見晴らし展望台まで全員で歩く。15分くらい歩いたので、体も少し温まってきた。荘所さんリードでストレッチをする。雲ひとつない青空が見えた。荘所さんの元気な声で気合もはいつたところで、ここからは4つのグループごとの行動になる。私はAグループの黒岩尾根を登るコースでした。布引貯水池に沿って遊歩道に行く。紅葉もややピークを過ぎたか、落ち葉がはらはらと舞ってこれも良いものです。後から後からおちてくるのに遊歩道の落ち葉を掃いておられる人を見かけた。この六甲山を愛しく思っておられるのだろう。我々が高御位山を思うように、温かい気持ちになった。市ヶ原で休憩してしばらく行くと黒岩尾根の登り口からかなり急な登りを1時間ほど登る。落ち葉が登山道に積もって滑って歩きにくい。上田リーダーの後を追う。木々の間から市街地や海がちらりと見えたがどこか確認する余裕もなく、展望もあまり良くなかった。冷たい空気が心地よく、汗をふきながら登る。尾根に登り切ると目的の摩耶山のアンテナが見えたが、谷を隔ててまだまだ遠く東に見える。アップダウンを繰り返し摩耶山の掬星台に到着した。すこし早い嬉しいお昼ご飯、陽ざしはあるが、汗で寒く感じる。他のグループの顔もみえた。

下りは天狗道、稲妻坂を降りる。天狗道は岩混じりの道で、落ち葉で石が隠れているので注意深く降りる。黒岩尾根ではあまり人に出会わなかったが、下りではたくさんの人に出会った。若い人、家族づれ、グループ等挨拶を交わしながら、山を楽しむ

狩集

人々が多い事を実感した。六甲山は色々な登山ルートがあり、登山道も標識も整備されているので、機会があれば行ってみたい。イノシシのいた形跡があちらこちらにあった。今回は出会わないでよかった。夏にロックガーデンで見たイノシシはどこにいるのだろうとイノシシ歳の私はちょっと気になります。下りでは景色を見る余裕もあって、紅葉も陽に映えて美しかった。見晴らし台でストレッチをして、納山会会場へ向かう。「ざこば」にはもう皆さん来ておられた。グループごとにテーブルについて、荘所さんの音頭で乾杯。程よい疲れと達成感で皆さんご機嫌。ビールで喉を潤し、杯を重ねる毎に陽気になって宴は盛り上がりしました。

今年は高御位山遊会の10周年の記念の年であった。例年は泊の納山会であったが、今年は日帰りで行われ、会員の半数以上が出席しての納山会となった。一人でも多く参加して年の締めとすることは高御位山遊会会員にとっても嬉しいことと思います。山行計画、準備など会長はじめ、運営委員の方や役員の方のご苦勞を思い感謝しています。来年はリーダーの後をひたすら追いかける子鴨状態を脱して、少しでも自立した登山者に近づきたいと思っています。これからも健康で楽しく山行出来ることを願っています。



六甲摩耶納山会感想

12月5日 天候に恵まれ歩き易く山日和でありB班は、縦走路で掬星台から青谷旧摩耶雷声寺コースである。今年は、夏山の何処かへ行きたいと思い、一人で新神戸駅から出発し有馬温泉コースまで練習しましたが、やはり暑さには勝てず、塩をなめながらも熱射病になり足が攣りおどおどと歩いたモノである。温泉に行ってもすでにのぼせているので頭から水をかけクールダウンしてから風呂に入ったことを思い出しながら歩いた。やはり寒くなると歩き易く山の仲間とわいわい言いながら行くのは、楽しいものである。摩耶山から神戸空港・大阪・生駒山・関空和歌山・和歌山と最高の展望である。旧摩耶道は、久し振りで懐かしかった。またよろしくお願いします。感謝！！

多木



みんながいてる

快晴と良き仲間、絵に描いた様な紅葉、冬にしては涼しい風に恵まれての山行は真に快適でした。計画をして頂いた方々、またメンバーのために食べ物をご持参して下さいましたC班の皆様方に紙面を頂いた特権を利してお礼申し上げます。山行翌朝は筋肉痛よりも頭痛の方がや

水上

や多めに残っていましたが、会で習って以来、脚を日常的に鍛え、肝臓も、会ではまだ十分には教わってませんが、半世紀近く酒類に浸してあるお陰で、いずれも重症ではありませんでした。

しかし、痛みが残っているわけですから踵上げ・スクワット及びアルコール、共に量を増やそう・・・が一口感想で、早速踵を上げながら飲んでます。



一口感想

六甲摩耶山山行は多人数なので、4コースに分かれて登るとは聞いていたが、チームのメンバーをみて、これは大変！！ついて行けるか不安になった。しかし、今まで経験したことのないスピードにも何とかついていけ、コースも思っていたより楽だったのでホットした。

S・CO2

なごやかな納山会のあと、はぐれながらもほろ酔い気分で見えたルミナリエの優しい光に心温かくなり幸せな気分が帰途に着いた。

